

たとえば、「怒られるのを覚悟で言いますが」と最初に言うのです。このフリーズが最初に来ることで、何を言っても許されるわけです。そのほかには、

「これを言うと、ますます『ハア？』と言われると思いますけど」

「今日はもう、ぶちまけておきます」

「今日は失うものが多いな」

というセリフを最初に挟みます。

これは確信犯のフリーズです。

これを言うことによつて、相手にホンネをボンボンぶつけていけます。

ホンネを言うべきか、言わざるべきかはありません。

「今日はぶちまけておきます」「怒られるのを覚悟で言いますが」と言ったあとでホンネを言うと、相手は怒れません。

一番困るのは、ホンネを言わずにガマンして、あとでそれをブチブチ言われたり、ネットで書かれることです。

話の最後に「とは言うものですね……」と言うのは、一番ヘタな話し方です。

「怒られるのを覚悟で言いますが」というフリーズを、まず覚えればいいのです。上手なフリーズの使い方を学ぶためには、「あの人はどういうフリーズを使っているのか」と、上手な人の上手なところを聞き取る力が必要です。

それがないと「今でしょ」しか聞き取れないのです。

そこばかり聞いていても、一流の巻き込む話し方は身につかないのです。

あの人を巻き込むために 02

「怒られるのを覚悟で言いますが」と、言おう。